

なかよし

天童中部小学校
いちよう学級
R5.2.3
No.29

いちよう学級では、縦割り学年で編成したチームで、それぞれの実態に合わせた学習を重ねています。昨年12月に編成を見直し、新しいチームになりました。今回はチーム学習を通して、ますます自分らしく伸び続けている子ども達の様子を紹介します。

「箸を使って集めて教えよう」

チームでは、日替わりで学習^{ミッション}を設定し、子ども達が自分の力で達成するスタイルで、学習に取り組んでいます。その日の学習^{ミッション}は、丸めたり折ったりした新聞紙を箸で集めて数えるという、算数と生活単元を合わせた学習でした。

「丸いのはつかみやすいけど、四角いのはむずかしいなあ。」、「ん？もしかして、箸をスーッとすべらせたら、このペラペラしたのもの、いっぱい集められるかも？」など、子ども達の会話にも言葉を表現する力の伸びが感じられます。



Aさんは、みんなが数える様子を静かに見ていました。「Aさん、数えないの？」と友達から声をかけられても、じっとしています。そして、みんなが数え終わった後、すっと立ち上がって黒板の前に行きました。「Bさんは何個だった？」、「Cさんは何個？」、「Dさんは？」と数を確認して、黒板に名前と個数を書きました。その後、自分の場所に戻って、大きな声で数えはじめました。ていねいに数え終わると、自分の名前と個数を黒板に書きました。

「Aさんが黒板に書いてくれたから、わかりやすくなったね！」とBさん。「本当だね～。ぼくとDさんは近いけど、ぼくのほうが2個すくないね。」とCさん。「ぼくよりもAさんのほうがすごいよ。どうやったら、そんなにいっぱい集められるの？」とDさん。

今回の算数的な目標は200まで数えることでした。子ども達は間違いずに数えて終わりではなく、自分と友達の数と比較していました。また、箸を上手に使うことが生活単元的な目標でした。子ども達は箸を使って集めて終わるのではなく、どうやったらたくさん集めることができるのかを自分の頭で考えたり、友達の様子からヒントを得たりしながら、工夫していました。

子ども達は教師側の目標や期待を良い意味で裏切ってくれます。各教科の学習時間に限らず、日々の学校生活で出会う、このような場面こそ子ども達の成長の証です。自分らしく伸びる子ども達の証を見逃さず、次学年へのステップアップにつなげていきます。